

ミズナの主な病害虫の防除対策

ミズナ栽培では、ハウスを利用して周年で長期に連作すると、土壌病害の立枯病やリゾクトニア病、萎凋病、軟腐病などが発生しやすくなります。また、茎葉病害では白さび病や菌核病など、害虫ではキスジノミハムシ、アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハイマダラノメイガなどが時期により発生します。

作期によって病害虫被害の発生が大きく異なりますので、作期ごとに病害虫の発生実態をよく整理し、作期ごとの適切な防除体系を組み立てることが重要になります。

防除対策のポイント

ミズナには登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない総合防除が必要です。

- ①多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場の排水不良の改善や高畦栽培を行い、過度の灌水を避けて適度な湿度条件に保つよう、ハウスやトンネル換気等の適正管理に努めます。
- ②発病株は早めに除去し、発病場所を中心に早めの薬剤防除を行います。
- ③連作や土壌病害が発生した圃場では、除塩を兼ねて、**夏季の還元型太陽熱土壌消毒**などを実施しましょう。
- ④害虫の対策には、ハウスやトンネルの開口部に**防虫ネット**を展開して、害虫の侵入を防ぐことが最も大切です。
- ⑤害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草を除草するなど、**圃場衛生**に努めます。
- ⑥登録のある各種粒剤を播種または定植前に処理し、被害が発生したら早期の除去と薬剤防除を実施してください。

表1 ミズナ主要病害に対する主な防除薬剤

(令和 6 年 9 月 18 日現在)

薬 剤 名	対 象 病 害					使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	立枯病	根こぶ病	リゾクトニア病	白さび病	軟腐病			
ダコニール 1000	○					1,000 倍液を 3ℓ/㎡土壌灌注	は種時/1 回	M05
タチガレン液剤	○					500 倍液を 3ℓ/㎡土壌灌注	は種時/1 回	32
フロンサイド粉剤		○				30kg/10a 全面土壌混和	は種前/1 回	29
リゾレックス水和剤			○			1,000 倍液を 3ℓ/㎡土壌灌注	は種時/1 回	14
ユニフォーム粒剤				○		9kg/10a 全面土壌混和	は種前または定植前/1 回	4 と 11
ジーファイン水和剤				○		1,000 倍	収穫前日まで/ー	M01 と NC
ランマンフロアブル				○		2,000 倍	収穫 3 日前まで/3 回以内	21
アミスター 20フロアブル				○		2,000 倍	収穫 7 日前まで/2 回以内	11
Zボルドー					○	500~1,000 倍	ー / ー	M01

注) 表 1 の分類欄には FRAC コード、表 2 には IRAC コードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ミズナ主要害虫に対する主な防除薬剤

(令和 6 年 9 月 18 日現在)

薬 剤 名	対 象 害 虫					使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	キスジノミハムシ	アブラムシ類	コナガ	アオムシ	ハモグリバエ類			
スタークル粒剤	○	○				6kg/10a 播溝土壌混和	は種時/1 回	4A
ダイアジノン粒剤 5	○					6kg/10a 全面土壌混和	は種時または定植時/1 回	1B
フォース粒剤	○					4kg/10a 全面土壌混和	は種前/1 回	3A
アクセルフロアブル	○		○			1,000 倍	収穫前日まで/3 回以内	22B
アディオオン乳剤				○		2,000 倍	収穫前日まで/3 回以内	3A
ウララ DF		○				2,000~3,000 倍	収穫前日まで/3 回以内	3A
エコマスター BT			○	○		4,000 倍	収穫前日まで/2 回以内	29
プロフレア SC	○		○	○		1,000~2,000 倍	発生初期(収穫前日まで)/ー	11A
スピノエース顆粒水和剤			○	○	○	2,000~4,000 倍	収穫前日まで/3 回以内	30
アフーム乳剤			○	○	○	5,000 倍	収穫 3 日前まで/1 回	5
カスケード乳剤			○	○	○	1,000~2,000 倍	収穫 7 日前まで/3 回以内	6
モスピラン顆粒水溶剤	○	○			○	2,000 倍	収穫 7 日前まで/2 回以内	15
						4,000 倍	収穫 7 日前まで/1 回	4A

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。